

テーマ展「千変万化 美しき水の意匠」展示作品リスト

番号	名称	作者	数量	時代	指定	所蔵
流水						
1	わがやどまきえずりばこ 我宿蒔絵硯箱		1合	室町時代	重要文化財	当館(井伊家伝来資料)
2	のうしようぞくしろあさぎだんりゅうすいもんようすりばく 能装束 白浅葱段流水文様摺箔		1領	江戸時代		当館(井伊家伝来資料)
3	のうしようぞくあさぎじりゅうすい ふな みずくさもんようか 能装束 浅葱地流水に鯛と水草文様掛 けずおう 素襖		1領	江戸時代 嘉永2年(1849)		当館(井伊家伝来資料)
4	のうしようぞくしろじりゅうすい かえではもんようもんおおくち 能装束 白地流水に楓葉文様文大口		1腰	江戸時代		当館(井伊家伝来資料)
5	のうこどうぐ りゅうすい きくきつこうつな ずとうちわ 能小道具 流水に菊亀甲繫ぎ図唐団扇		1握	大正時代～ 昭和時代		当館(井伊家伝来資料)
6	なしじりゅうすいかめもんまきえながふばこ 梨地流水亀文蒔絵長文箱		1合	江戸時代		当館(井伊家伝来資料)
滝						
7	にっこうさんたきざ 日光三滝図	かのうよしひのぶ 狩野由信	3幅	江戸時代		清凉寺
8	びわ めいりゅうせん 琵琶 銘流泉		1面	江戸時代		当館(井伊家伝来資料)
波						
9	きざなみふる 漣風炉		1口	江戸時代		当館(井伊家伝来資料)
10	くろうるしめりたつなみなりはりかけかぶと 黒漆塗立浪形張懸兜		1頭	江戸時代	市指定文化財	当館(井伊家伝来資料)
11	ことうやき そめつけなみもんふながたはいせん 湖東焼 染付波文舟形盃洗		1口	江戸時代		当館
12	なみ ちどりずひちりきえ 波に千鳥図筆簞笥		1合	江戸時代		当館(井伊家伝来資料)
13	なみ たこずつば (大)波に蛸図罽 なみ みかづきつば (小)波に三日月図罽		各1枚	江戸時代		当館(井伊家伝来資料)
14	くろうるしめりなみうきざすまきえさかずき 黒漆塗波兎図蒔絵盃		1口	江戸時代		当館(井伊家伝来資料)
15	あまのはしだてすまつしま あまのはしだてず 天橋立図(松島・天橋立図の内)	かのうえいがく 狩野永岳	6曲1双 の内1隻	江戸時代		個人
青海波						
16	ことうやき そめつけはしくいがたりゅうすいはないけ 湖東焼 染付橋杭形龍図花生		1口	江戸時代		当館(河本英典氏寄贈資料)
17	のうしようぞくしろじせいがいは くさばな い お 能装束 白地青海波に草花など入り扇 うぎち もんようあついた 散らし文様厚板		1領	江戸時代		当館(井伊家伝来資料)
荒磯						
18	こうちあらいそもんこうごう 交趾荒磯文香合		1合	中国 明時代		当館(井伊家伝来資料)
19	しつぽうあらいそはなもんみずさし 七宝荒磯花文水指		1口	中国 明時代		当館(井伊家伝来資料)
20	のうしようぞくこんじがんにりょう ふうけいもんようそぼつぎ 能装束 紺地丸竜と風景文様側次		1領	江戸時代(裂 中国 清時代)		当館(井伊家伝来資料)
蓮池						
21	たあしんきょうぞう 他阿真教像		1幅	南北朝時代	県指定文化財	高宮寺

作品解説

1 のうしょうぞく あさぎ じりゅうすい ふな みずくさもんようかけ ず おう 能装束 浅葱地流水に鮎と水草文様掛素襦 1領（作品リストNO. 3）

丈 49.8cm 衿 92.5cm

江戸時代 かえい 嘉永2年（1849）

当館（井伊家伝来資料）

そで みごろ すそ 袖と袴の裾に流水と鮎、
あさぎ 水草を配した掛素襦。浅葱
の地色を水に見立て、水に
遊ぶ鮎を表現した、涼しげ
な一領です。流水は生地を
染め残して白い線とし、鮎
と水草は、染め残した部分
に筆を使って模様を描きま
す。緩やかなカーブを描く
伸びやかな線で表された流
水によって、ゆったりとした水の動きが巧みに表現されています。

素襦は、麻地の装束。ながばかま長袴とセットで、武士の日常着、一般男性の平服として用いられます。その内、上着だけのものを掛素襦といいます。



2 にっこうさんたき ず 日光三滝図 3幅（作品リストNO. 7）

かのうよしのぶ 狩野由信 筆

各縦 116.9cm 横 49.7cm

江戸時代

清凉寺

名所として名高い日光の三
名瀑、向かって右から裏見
のたき け ごんのたき きりふりのたき滝、華厳滝、霧降滝を描
いた三幅対。これらの滝は、
絵画の画題としてしばしば取
り上げられ、浮世絵の名所な
どにも描かれています。

岩の上から飛び出すように
流れ落ち、滝壺で水煙をあげ
る裏見滝、幅の広い滝が岩に
ぶつかりながら蕩々と流れる

霧降滝、そして、画面上部の中禅寺湖から勢い良く流れ落ちる壮大な華厳滝。本作は、姿の異なる三つの滝が巧みに描き分けられている点に面白みがあります。

かのうよしのぶ 狩野由信は、18世紀後半に活躍した狩野派の絵師。



3 黒漆塗波兔蒔絵盃 1口 (作品リストNO.14)

高 2.2cm 口径 14.4cm

江戸時代

当館 (井伊家伝来資料)

三日月の浮かぶ空の下、波の上を走る 兔 を表した盃。
この図様は、能〈竹生島〉の

月海上に浮かむでは 兎も波を奔るか
おもしろの島の景色や

という、島の風景を描写した一節に由来します。〈竹生島〉は、数ある演目の中でも最もポピュラーなものの一つ。波と兎の組合せは、特に近世において、蒔絵や陶磁器などの工芸品の図様として愛好されました。



4 能装束 白地青海波に草花など入り扇散らし文様厚板 1領 (作品リストNO.17)

丈 150.8cm 桁 68.3cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

装束全面に金で青海波文を、その上に扇を織り表した厚板。扇が波間に漂う様を表現した、扇面流しの図様をとります。扇は、開いたもの、畳んだものと様々で、その中に蘭や鉄線、菊などの四季の草花、州浜、七宝繋ぎといった文様が表されています。

青海波文は、同心円を交互に重ねて、連なる波を圖案化した文様です。舞楽の〈青海波〉の装束にこの文様がいれたため、この名が付いたとされます。本作では、全面に施された青海波文が、まるで装束を光輝させるかのような効果を上げています。

厚板は、男役が表着の下に着る装束。



5 ^{こうち あらいそもんこうごう}交趾荒磯文香合 1口 (作品リストNO.18)

高 6.5cm 口径 7.6cm

中国・明時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

^{あらいそもん}荒磯文は、打ち寄せる波と波間に跳ね踊る魚などを組み合わせた文様です。中国由来の文様の一つで、染織品や陶磁器をはじめとする工芸品にしばしば見られます。

本作は、^{こうちやき}交趾焼と呼ばれる、中国の南部で制作された香合^{こうごう}。蓋には波間に見え隠れする魚と海老、海獣、胴には逆巻く波を表します。その波は意匠化され、交互に重なる半円の所々に、小さな丸で表された波頭が飛び出すように配されています。

